

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 9 月 9 日現在

機関番号：34104

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12280

研究課題名(和文)非特化型訪問看護ステーションにおける精神科訪問看護実践能力向上に関する研究

研究課題名(英文)Study on improvement of nurses' psychiatric nursing skills at non-psychiatric home-visit nursing station

研究代表者

郷良 淳子(GORA, JUNKO)

鈴鹿医療科学大学・看護学部・教授

研究者番号：40295762

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文):精神科非特化の訪問看護ステーションが、精神疾患を有するまたは精神的問題を抱える利用者をケアする際の困難とその対処方法、対処の支援内容を明らかにする4年間の研究である。非特化型ステーションの看護師の調査と管理者への半構成面接によるミクスドメソッドでケアの困難を明らかにした。ケアの困難には、不安、関係構築の困難、家族支援の困難、精神的問題による困難、経済的不採算があり、精神科受診に消極的な利用者を多く抱えていた。利用者は精神科アウトリーチの対象を含み、地域の精神保健サービスとの緊密な連携が不可欠であった。この結果から、多職種が支援するweb相談による非特化型の訪問看護師の支援を開始した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

精神科非特化の訪問看護ステーションも精神疾患や精神的問題を抱える人々を少なからずケアしていた。精神科訪問看護ステーションが対象とする、すでに精神科治療中の利用者とは異なる対象であり、ひきこもり等のアウトリーチの対象となる人々、精神疾患に身体疾患を有している人など多彩であり、精神科医療からこぼれ落ちる人々ともいえる。非特化型ステーションの看護師の精神看護実践能力の向上は、これらの人々のQOLの向上につながる。

加えて、精神科非特化ステーションにおける精神科看護のニーズやケアの困難の実態に関する研究および困難の軽減を目指す実践的研究は、これまで非常に限られており独創的であるといえる。

研究成果の概要(英文):This is a four-year study on the improvement of nurses' psychiatric nursing skills at non-psychiatric home-visit nursing station. This mixed-method study revealed the difficulties of care for people with mental problems by nurses at non-psychiatric home-visit nursing station. Difficulties in care included anxiety, difficulty in building relationships, difficulties in supporting families, difficulties due to mental problems, and financial unprofitability. Many users were reluctant to take psychiatric treatment. These users can be effectively supported only by nurses and local mental health professionals with highly relationship skills. We have just started to support visiting nurses through a consultation website in order to improve their counselling skills and get tips on taking relationships of other professionals who the users need.

研究分野：精神看護学

キーワード：精神科訪問看護 非特化型訪問看護ステーション 訪問看護相談サイト ひきこもり アウトリーチ 混合研究法

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

厚生労働省は、2010年以降精神疾患を持つ利用者への訪問看護が広く普及することを目的に訪問看護ステーション(以下ステーションとする)を対象とした研修事業を推進した。この研修事業の多くは20時間程度の研修であり、困難事例の相談や経験を元にした対象者のニーズへのきめ細やかな対応は難しく、精神科に特化しないステーション(以下非特化型ステーションとする)における精神疾患を持つ利用者への訪問の困難さはいくつか明らかになっている。2007年には、全国のステーションを対象に精神科訪問看護の困難事例の実態調査が行われ、長時間の電話の対応や2人態勢での訪問の診療報酬化等が指摘された(林, 2010)。加えて、関係機関との連携の困難さや利用者とのあいまいな訪問の合意、援助上の困難やコミュニケーションの困難、家族の援助の困難、知識不足、偏見など様々な困難を抱えている非特化型の訪問看護師の姿が報告されている(井上, 林, 2012)。このような背景から2012年には、2名での精神科訪問看護加算、重症者への週に4日以上での訪問の診療報酬増加などの改定がされているが、これらは各ステーションの努力に任されている。これらから、精神疾患を持つ利用者へのケアの多彩さや利用者との関係構築の難しさの実態を浮き彫りにしその支援方法を検証することは喫緊の課題と言える。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、非特化型ステーションにおける精神科訪問看護実践能力向上のための研究であり4年間の研究である。1. 非特化型ステーションにおける精神疾患を持つ利用者への訪問看護の実態調査および非特化型ステーションの管理者からの聞き取り調査を行い精神科訪問看護実践の困難や学習ニーズを明らかにする。2. 精神科訪問看護の先駆的ステーションの管理者や熟練看護師、地域精神保健の専門職からの聞き取りにより1の困難の方略の要素を明らかにする。3. 1と2を踏まえ精神科訪問看護実践能力向上のweb相談を実施し、4. その効果の評価を行うことを目的として研究を実施した。

## 3. 研究の方法

### 1) ミクストメソッドによる非特化型ステーションにおけるケアの困難の研究

1 - 2年目は、困難に関する実態調査と半構成面接調査の収斂型ミクストメソッドにより、非特化型ステーションの訪問看護師が精神的問題を抱える利用者をケアする際の困難を明らかにする研究を実施した。

実態調査では、研究者が関西及び東海2府7県における非特化型ステーションの精神疾患あるいは精神的問題を抱える利用者をケアする訪問看護師を対象に、これらの利用者数、疾患名、性別等の基礎データ、ケアの困難、学習ニーズ、精神障害者への態度、職業上のストレスを問う無記名の自記式質問紙を郵送し、返送による調査である。

質的帰納的研究では、雪だるま式サンプリングによる非特化型訪問看護ステーションの管理者への半構成面接により、ケアの困難や学習ニーズを探求した。

#### (1) 実態調査の調査項目

調査票は、非特化型訪問看護ステーションで働く訪問看護師の基本属性と訪問看護師が体験した精神的問題を抱える利用者の困った事例を1名選択してもらい、利用者の属性、背景などの記載を依頼した。精神的問題を抱える利用者のケアの困難さについては、先行研究を参考に34項目を作成し、5「よくある」から1「まったくない」の5段階で求めた。さらに精神障害者に対する態度尺度と学習ニーズ、職業意識と心身の健康の尺度により、困難の要因を探求し、その後の相談や研修に役立つ基礎資料となるようにした。A3両面1枚

の質問紙にまとめた。実態調査の分析には SPSS v24 を用いた。

## (2) 質的帰納的研究

非特化型訪問看護ステーションの管理者を対象として、精神的問題を抱える利用者のケアの困難を半構成面接により明らかにした。逐語録の定性データ分析には Nvivo11 を用いて信頼性を高めた。

精神的問題を抱えた利用者に対する因子探索的研究と質的帰納的研究の収斂型ミクスドメソッドにより、非特化型ステーションの訪問看護師のケアの困難を明らかにした。

### 2) 1) のケアの困難に対する方策の明確化

2-3 年目は、精神保健サービスの利用に消極的でありかつ精神的問題を抱える人に対する先駆的实践者である専門職および先駆的精神科訪問看護実践を行っている特化型ステーションの看護師を対象に、地域で生活する精神的問題を抱える人々への関わりの支援の方策、地域の専門職との連携の方策を明らかにする質的帰納的研究を行った。これら 2 つのデータ収集とデータ分析から精神科訪問看護の実践能力の必須内容および能力向上に必要な支援内容を明らかにした。

### 3) 訪問看護師を対象とした web による相談サイトの開発

4 年目は、1-3 年目の研究成果を基にした精神科訪問看護の実践能力向上のための Web による精神科訪問看護の教育相談やコンサルテーションの実践と評価を行った。web における相談や利用の満足度についても web でアンケートを実施する。

## 4. 研究成果

### 1) 非特化型ステーションの看護師が抱える困難の実態

#### (1) ケア困難の実態調査

2017 年 11 月時点で全国訪問看護事業協会に登録している、近畿・東海 2 府 7 県の非特化型ステーション計 1581 施設に勤務する訪問看護師（一施設あたり 3 名）4743 名を対象とした。2018 年 1 月に郵送にて配布し、2018 年 2 月末までを回収期間とした。

4743 名のうち回収数 778 名（回収率 16.4%）であった。性別、年齢、訪問看護時困難への質問項目に欠損や重複のない 609 名（有効回答率 12.8%）を分析対象とした。その結果、性別は男性 33 名（5.4%）、女性 576 名（94.6%）、年齢は 40 歳代 274 名（43.0%）が多かった。臨床経験年数の平均は 17.9 年（±9.1）、精神科経験年数 2.3 年（±5.7）、訪問看護経験年数 7.7 年（±6.2）、精神訪問看護年数 2.8 年（±4.1）であった。研究対象者の概要を表 1 に示した。

#### (2) ケア困難の因子

訪問看護師のケアの困難さの因子分析の結果、固有値 4.0 以下の項目を削除した 31 項目が抽出され、第 1 因子「不安」7 項目、第 2 因子「関係構築の困難」7 項目、第 3 因子「精神的問題からくる困難」6 項目、第 4 因子「家族支援の困難」5 項目、第 5 因子「経済的不採算」5 項目とした（表 2）。ピアソンの相関係数では全てに正の高い相関と 係数は 8.65 ~ 8.27 の信頼性を得た。項目の内的整合性検証には因子分析と相関にはピアソンの相関係数、信頼性はクロンバック 係数で求めた。

表1 研究対象者の概要

| 訪問看護師・利用者の背景      |           | N=637 |      |       |       |  |
|-------------------|-----------|-------|------|-------|-------|--|
|                   |           | n     | %    | 平均値   | 標準偏差値 |  |
| 性別                | 男性        | 33    | 5.2  |       |       |  |
|                   | 女性        | 604   | 34.8 |       |       |  |
| 看護師の<br>属性        | 年齢        | 20-29 | 17   | 2.7   |       |  |
|                   |           | 30-39 | 118  | 10.5  |       |  |
|                   |           | 40-49 | 274  | 43    |       |  |
|                   |           | 50-59 | 195  | 30.6  |       |  |
|                   |           | 60以上  | 33   | 5.2   |       |  |
| 看護師の<br>各経験年<br>数 | 臨床経験年数    |       |      | 17.89 | 3.12  |  |
|                   | 精神科経験年数   |       |      | 2.33  | 5.66  |  |
|                   | 訪問看護経験年数  |       |      | 7.62  | 6.22  |  |
|                   | 精神科訪問看護年数 |       |      | 2.76  | 4.13  |  |

## 2) ケア困難と学習ニーズの関連

関連要因を検討するため、性別、年齢、経験年数を従属変数とし、重回帰分析を行った。ケアの困難さに関連した要因は、性別で訪問の恐怖や緊張感、戸惑い、病状の把握などの「不安」 $\beta = .21$  ( $p=0.00$ )、暴力・セクハラ行為の対応、依存的なふるまい、緊急体制などの「関係構築の困難」 $\beta = -.11$  ( $p=0.50$ ) で有意に関連した。精神科経験年数では「不安」 $\beta = -.127$  ( $p=.020$ )、「関係構築の困難」で $\beta = .124$  ( $p=.050$ )、精神科訪問看護経験年数でも「不安」 $\beta = -.137$  ( $p=.012$ )、「関係構築の困難」 $\beta = .253$  ( $p=.000$ ) で有意に関連した。年齢、臨床経験年数の有意な関係はなかった。

また精神科看護経験年数と学習ニーズのうち「対象理解の方法」( $p=0.036$ )と「必要な法律や制度の活用方法」( $p=0.009$ )は、有意に関連した。

## 3) 質的帰納的研究から導き出したケアの困難

非特化型訪問看護ステーション管理者 11 名に対し、精神的問題を抱えた利用者の具体例やその困難やその対応を明らかにすることを目的に半構成面接で聞き取った。

面接データは逐語録にし、コード化、カテゴリー化を行った。本研究の 11 か所の訪問看護ステーションは、それぞれ精神的な問題を持つ利用者 4~10 名程度をケアしていた。糖尿病などの身体合併症を持つ精神障害者または、精神疾患の治療を受けておらず、身体疾患の治療で初めて訪問看護を受けるといった特徴があった。利用者から暴力や自傷行為、頻回な電話や訪問要求、精神状態の悪化への対応に困難を感じていた。加えて利用者の家族に精神的な問題を抱える者も少なくなく、その対応も行っていった。

精神障害者のケアに苦慮しながら、孤軍奮闘している訪問看護師が多かった。また未治療者を精神科治療へつなぐ窓口としての非特化型ステーションの潜在的な役割も示唆された。精神症状の悪化の見極めの教育や、精神科訪問に特化したステーションとの連携の必要性が示唆された。

## 4) 非特化型訪問看護ステーションがケアする精神的問題を抱えた利用者の実態

非特化型訪問看護ステーションにおける精神疾患を有するあるいは、精神的問題を抱えた利用者の実態を明らかにした。(1)に実態調査の回答者 774 名(回収率 16.3%)、有効回答数 736 名(15.5%)であった。1 訪問看護師当たり 4.2 名(0-65 名)の精神的問題を抱える利用者を担当していた。研究対象者が最も気になった精神疾患を有する、または精神的問題を抱えた利用者について回答してもらった。精神疾患の診断がついた者が 517 名(70.2%)で、統合失調症が最も多く 225 名(30.6%)であった。次いでうつ病 104 名(14.1%)、双極性障害 46 (6.3%)、認知症 40 (5.4%)であった。精神疾患の診断がつかず、精神的問題を抱える利用者は、214 名で、うち「不安が強い」が一番多く 135 名、次いで精神的不安定 132 名、感情の起伏が激しい 99 名、引きこもり 47 名であった(複数回答)。

紹介元は、心療内科や精神科病院が多く 256 名、続いて内科系クリニックや一般病院が 194 名、介護保険のケアマネージャーが 171 名、市町村や保健所などが 31 名であった。精神疾患と紹介元には有意な関連があった ( $\chi^2=169.9$ 、 $p=0.00$ )。

#### 5) 実態調査と質的帰納的研究によるケアの困難

非特化型ステーションの訪問看護師がケアする精神疾患および精神的問題を抱えた利用者は、統合失調症等の精神的診断がつく人が多かった。一方で診断がつかない認知症疑いやひきこもり、精神科受診に消極的な人が非特化ステーションを利用していることが、質的帰納的研究から明らかになった。精神科医療の消極的な利用者は、概して他者不信が根強く、関係を結んでいくことに訪問看護師は苦慮していた。

研究対象者の法律や制度を活用やニーズ、対象理解方法、カウンセリングの活用の学習ニーズが困難と関連していたことも関係構築の難しさをうかがわせるものであった。これらの利用者は、特化型ステーションの利用者にもならず、厚生労働省のアウトリーチ対象の中心的な人々を非特化ステーションがケアしている状態が浮き彫りになった。

しかし、16%という回収率の少なさは、質的研究の研究参加者である非特化型ステーションの管理者が「精神的問題を抱える利用者との信頼関係を築くことは難しい」、「精神科訪問看護研修回数の少なさや費用が高いことから、容易に精神科訪問看護の扉を開くことの困難」、「精神症状のアセスメントおよび的確な対応の困難」から精神的問題を抱える人への訪問に消極的になることが背景にあった。

#### 6) エキスパートによる精神的問題を抱えた人への支援の方策

研究目的は、地域で生活する精神科サービスを求めない精神的問題を抱える人のケアニーズに呼応する方策を明らかにすることである。

1 - 2 年目の研究から、非特化型ステーションの精神的問題を抱える利用者は、精神的な問題を抱えながらも、地域精神保健サービスを利用することに消極的になっている人々が多くいることが示唆された。これは単に、特化型ステーションとのシームレスな連携がケアの困難の解決につながらないことを意味する。精神科医療に抵抗のある人を精神保健サービスにつなげるという高度な対人カウンセリング技法を必要とすることが示唆された。

質的帰納的研究により、精神科医療につながらない精神的問題を抱える人をケアする専門職 7 名 (精神保健福祉士 4 名、看護師 2 名、作業療法士 1 名) を目的的サンプリングでの半構成面接によりデータを収集した。データ分析には、定性データ分析ソフト NVivo11 を用い、継続的比較分析を行った。地域で生活する精神科サービスを求めない精神的問題を抱える人とは、ひきこもりの人、未治療統合失調症者であった。これらの人々への方策として、【患者の地域生活に焦点化したアセスメント能力】、【保健所や市役所を絡めた多職種連携】、【介入のコツ】があり、その方策を円滑にしていくためには、【制度上の連携困難】、【訪問看護師のアセスメントと対人関係スキルの課題】への対応が抽出された。

#### 7) 1 - 3 年目の結果を受けて

訪問看護師対象の web 相談サイトを開設した。それまでの研究結果から地域の社会資源の情報と連携、ひきこもりの人の支援、精神科につながらない精神疾患を抱えていそうな利用者と関係を構築できる高度実践能力を持つ地域精神保健のエキスパートや当事者から利用者のニーズやかかわり方のヒントを助言してもうように、回答者を整備した。また相談内容の匿名性への配慮とアクセスのしやすさを考慮した相談方法等を工夫した。現在まだ相談数が少ないためその満足度の検証までには相談事例を今後重ねる必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Junko Gora, Junko Yamamoto, Hideko Ishii   |
| 2. 発表標題<br>Measures Responsive to Care Needs of Psychiatric Patients in Community who are Reluctant to Receive Psychiatric Services |
| 3. 学会等名<br>The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)                             |
| 4. 発表年<br>2020年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Junko Yamamoto, Junko Gora, Hideko Ishii  |
| 2. 発表標題<br>Relationship between Visiting Nurses' Needs and Difficulties in Nursing Care for Patients with Mental Health Issues |
| 3. 学会等名<br>The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)                        |
| 4. 発表年<br>2020年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>郷良淳子 山本純子                              |
| 2. 発表標題<br>精神科に特化しない訪問看護ステーションにおける精神的問題を抱えた利用者の実態 |
| 3. 学会等名<br>日本精神障害リハビリテーション学会第27回大阪大会              |
| 4. 発表年<br>2019年                                   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>山本純子                           |
| 2. 発表標題<br>精神的問題を抱える利用者への訪問看護師のケア困難感の関連要因 |
| 3. 学会等名<br>日本看護科学学会                       |
| 4. 発表年<br>2018年                           |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>郷良淳子  |
| 2. 発表標題<br>Title: Current Situation and Issues of Home-Visit Nursing for Users with Psychiatric Problems at Non-Psychiatric Home-Visit Nursing Station |
| 3. 学会等名<br>WANS (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2017年  |

|                                       |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>郷良淳子                       |
| 2. 発表標題<br>精神的問題を抱える利用者への訪問看護の困難の関連要因 |
| 3. 学会等名<br>日本看護科学学会                   |
| 4. 発表年<br>2017年                       |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

|                               |
|-------------------------------|
| mayutsumugi.jp<br>訪問看護師の相談サイト |
|-------------------------------|

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                     | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                 | 備考 |
|-------|---|---------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 石井 英子<br><br>(Ishii Hideko)<br><br>(50367695) | 岐阜保健大学・看護学部・教授<br><br><br><br>(33709) |    |

## 6. 研究組織（つづき）

|                   | 氏名<br>(研究者番号)                                    | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                   | 備考 |
|-------------------|--|---|----|
| 研究<br>分<br>担<br>者 | 山本 純子<br><br>(Yamamoto Junko)<br><br>(50413422)  | 大手前大学・国際看護学部・教授<br><br><br><br>(34503)  |    |
| 研究<br>分<br>担<br>者 | 松浦 利江子<br><br>(Matsuura Rieko)<br><br>(50535995) | 金城学院大学・付属研究所・准教授<br><br><br><br>(33905) |    |